



ご当地自慢

あもり
天生県立自然公園

51

飛騨署

奥飛騨の秘境・飛騨市河合町は、岐阜県北部に位置し、東は槍・穂高などの北アルプス、西は霊峰・白山を望む山々に囲まれた地で、日本海型の気候区に属し特に冬の降雪量が多く豪雪地帯に指定されています。白川村との境にある天生峠は一年の半分を雪に閉ざされています。



紅葉の天生高層湿原 (写真1)

天生県立自然公園(平成十年四月一日指定)の古川担当区部内は、天生国有林二五五鈴、横谷国有林六一鈴で天生峠以南の広大な面積のブナの原生林の他、高層湿原、カツラやサワグルミなどの大木で構成される溪畔林、更に標高が上がるにつれてダケカンバやオオシラビソの亜高山帯の植生や風衝地など、変化に富んだ豊かな自然を見ることが出来ます。

雪解けの直後のミズバショウに始まり、ニリンソウ、サンカヨウ、ニッコウキスゲ、コバイケソウなど、花が絶えることがないのが天生の大きな魅力です。なかでも天生高層湿原や溪畔林では、春から初夏にかけて一面お花畑になります。山地帯(ブナ帯)から亜高山帯の植物や湿原の植物をはじめ様々な種類があり、四十数種の野鳥など多様な動植物の生態系を観察することが出来る優れたフィールドです。

秋には、様々な種類や形、大きさの植物が立体的に混在していることから、赤・黄・レモンイエローなどの複雑多様な紅葉(写真1)を楽しむことができます。

天生峠(標高二一九〇メートル)を起点とする六・二キロメートルの遊歩道は、中部北陸自然歩道に指定され、健脚向きの登山コースとなっています。峠駐車場から約一・四キロメートル、森林浴を楽しみながら登ると植物群落保護林(天生高層湿原)。ここには匠屋敷があり古来の伝説を漂わせていま

す。ブナ等に囲まれた高層湿原(県の天然記念物に指定)で、春の雪解けの時期にはミズバショウやリュウキンカ(写真2)が咲き誇ります。湿原の内部にはイヌツゲ等の低木が侵入し始めており、湿原の陸化が進みつつあります。



ミズバショウとリュウキンカ (写真2)

高層湿原より一・九キロメートル地点には、なだらかな尾根の頂上部付近に木平湿原(写真3)があります。湿原の中には小丘が点在し、小規模な美しい湿原景観を保っています。



新緑の木平湿原 (写真3)

高層湿原を眺めながら〇・五キロメートルでカラ谷分岐(標高二二六〇メートル)へ。ここから木平探勝路(木平湿原を過ぎるとダケカンバ、ブナの原生林)、カラ谷登山道(カツラの巨木群「カツラ門」(写真4)があり写真撮影の人気の場所)、ブナ探勝路(ブナの原生林は天生県立自然



カツラ門 (写真4)

公園を代表する植物景観)に分かれ粉糠分岐(標高一六二〇メートル)で合流(亜高山帯の針葉樹林が多く見られるようになります)。

天生峠から約三時間で粉糠山(二七四四・三メートル)山頂へ。その名のとおり粉糠が積もったような特徴的な山頂部を持つ粉糠山からは三六〇度のパノラマ。北アルプス等を眺望することができ、眼下には下小鳥ダムが多くの水を蓄えています。

原生林への入口、天生峠へ足を運んで、大自然を堪能してください。

◇アクセス

JR飛騨古川より車で三・一キロメートル(約五十分)

白川郷ICより車で二・二キロメートル(約二十分)